

## 発災時（受入れ・運営）のチェックリスト

### 地域防災拠点での受入れ

✓ここをチェック

- 検温チェックや受付の担当者はマスクの他に手袋、フェイスシールドを着用している。
- 検温チェックなどを行うための受付、一般避難者用の受付、体調に不安がある方及び発熱等の症状がある方用の受付がそれぞれ設置できている。
- 検温チェックなどを行うための受付には、アルコール消毒液、マスク、体温計（非接触・腋下）、アクリルボードが準備されている。
- 一般の避難者用、体調に不安がある方及び発熱等の症状がある方の受付に避難者カードが用意されている。
- 受付に間隔をあけて並べるような目印がある。
- 発熱や咳等の症状が出た方及び濃厚接触者のための専用スペースまでの動線が確認できている。
- 自宅療養者が避難してきた際の対応が確認できている。



### 地域防災拠点の運営

- 拠点運営委員及び避難者のマスクの着用や手洗いの徹底など、基本的な感染症対策ができています。
- 定期的な清掃、消毒や換気ができています。
- 避難者同士（個人または家族単位）の間隔は少なくとも1mは確保できています。
- 食事をするときは互い違いに座ったり、同じ方向を向いて座ったりして食べるようにできています。
- 発熱や咳などの症状が出ている方と接触する担当者はマスクの他に手袋やフェイスシールドを着用している。
- 発熱や咳などの症状が出ている方との不要かつ長時間の接触はしないようにしている。
- 発熱等の症状が出ている方及び濃厚接触者用のスペースでは、各人のスペースが間仕切り等で区切られている。
- 食料や物資の配付は、手渡しでなく、置いてあるものを取ってもらうなどの工夫がなされている。
- 使用済みのマスク等、発熱等の症状がある人の弁当の容器等のごみについては、直接手で触れないようにしている。



## 感染症対策を踏まえた避難所づくり

新型コロナウイルス感染症が流行している中で、大地震などによる災害が発生した場合、ご自宅で生活できない方で、親戚や友人の家への避難も難しい方は地域防災拠点等で避難生活を送ることになります。

そのため、地域防災拠点等での「密閉・密集・密接」を避け、感染症対策に万全を期すことが重要となります。



## 発災前のチェックリスト

☞裏面に発災時のチェックリストもあります！

✓ここをチェック

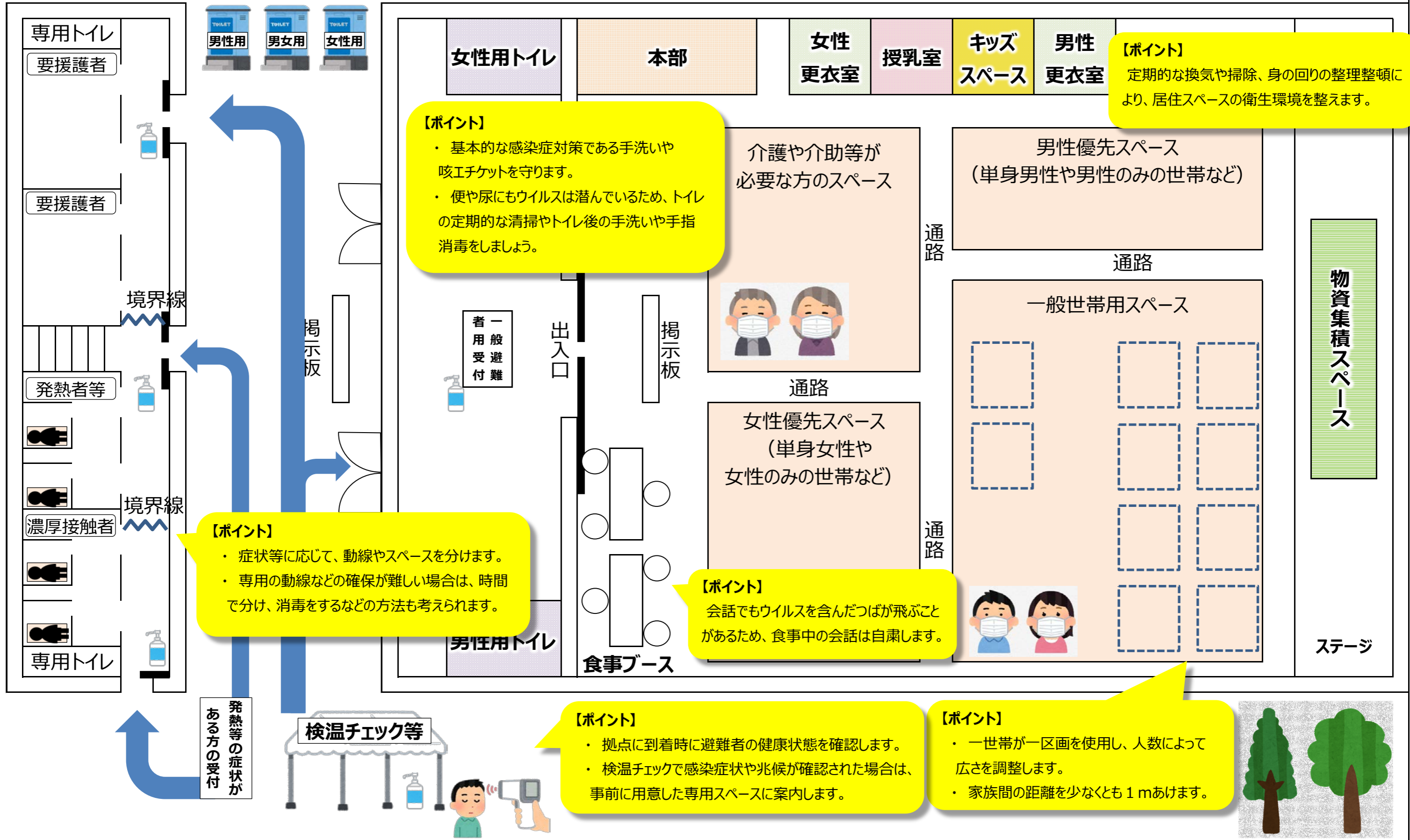
- 地域防災拠点となる学校の活用できるスペースが確認できている
- 発熱や咳等の症状が出た方及び濃厚接触者のための専用スペースが確認できている
- 発熱や咳等の症状が出た方及び濃厚接触者と一般の避難者の動線を分けるよう確認できている
- 感染症対策用の備蓄品の種類や数量が確認できている
- 風雨なども考慮したレイアウト例や感染症対策用の備蓄品の用途を参考にし、配置場所が確認できている



# 地域防災拠点の レイアウト例

新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえると、災害が発生し避難所を開設する場合には、感染症対策に万全を期することが重要となります。

発災直後は混乱しており、すべてに対応することは難しい場合もあるため、**できる範囲から取組を進めましょ**う。



**【ポイント】**

- 基本的な感染症対策である手洗いや咳エチケットを守ります。
- 便や尿にもウイルスは潜んでいるため、トイレの定期的な清掃やトイレ後の手洗いや手指消毒をしましょう。

**【ポイント】**

定期的な換気や掃除、身の回りの整理整頓により、居住スペースの衛生環境を整えます。

**【ポイント】**

- 症状等に応じて、動線やスペースを分けます。
- 専用の動線などの確保が難しい場合は、時間で分け、消毒をするなどの方法も考えられます。

**【ポイント】**

会話でもウイルスを含んだつばが飛ぶことがあるため、食事時の会話は自粛します。

**【ポイント】**

- 拠点に到着時に避難者の健康状態を確認します。
- 検温チェックで感染症状や兆候が確認された場合は、事前に用意した専用スペースに案内します。

**【ポイント】**

- 一世帯が一区画を使用し、人数によって広さを調整します。
- 家族間の距離を少なくとも1mあけます。

